

平成15年度第7回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

- 1 日 時 平成16年3月2日(火) 13:30~15:00
- 2 場 所 ほっとプラザ大供3階第3研修室
- 3 出席者 委員 9名
- 4 傍聴者 1名
- 5 会議の概要 岡山市子育てアクションプラン(素案)についてご審議いただいた。
- 6 主要な意見

プランの策定の趣旨に「子どもは親にとってかけがえのない存在」とあるが、子どもは本来かけがえのない存在であり、はかり知れない可能性を持つ存在である。

地域の子どもがどういう状況かよくわかり、親の相談にも対応しやすいので、乳児の育児相談は小学校区単位で実施してほしい。

子どもの虐待防止にもつながるので、特に早い段階での乳幼児健診の未受診者対応を具体的にプランに書くべきだ。

乳幼児健診の充実は数字だけでなく、すこやか親子21の目標にあるように健診の満足度の増加をプランに書いてほしい。

プランの中で「妊娠、出産、中絶、感染症の増加」に続いて「性犯罪の増加」が書かれているが、内容的に異なるので別の項目立てにするべきだ。

プランに乳幼児発達支援教室について「集団指導」と書かれているが、むしろ個別の対応が必要。

プランの「情緒、身体発育などの発達面で問題があると思われる」のところで、育っていく段階は皆違うのであり、「問題」というより他の適切な表現にしてほしい。

障害児保育拠点園が少ないので、より身近なところへ行けるよう充実してほしい。

子どもは自分で育っていくが、方向を間違わないように、地域みんなが子育てを見守って健やかに育っていくようにする。

人間関係を作る力が低下しているので、子どもが小さいときから一対一のきちんとした人間関係ができるよう、元気な高齢者をいかした孫育て事業や一時預かりなどを促進してほしい。

地域の高齢者の生き甲斐対策にもなるので、乳幼児と高齢者が気軽に交流できる機会を増やしてはどうか。高齢者が活躍できることを広く知らせることも必要。

地域の子育て支援の場を増やすと共に、それらをまとめ、子どものことなら何でも揃っているセンター的機能をもつ子どもの館のような所があればいいと思う。

不登校、引きこもりは重要な問題であり、行政の重点目標として施策に位置づけ、プランに入れてほしい。

民間グループが不登校、引きこもりの子どもへの取り組みをしており、行政として協働や援助などを行うべきである。

プランに教育との関連の記述が充実している点はいいことだ。学校と地域のネットワークを一層進めてほしい。

開かれた学校、特色ある学校作りもあるが、不審者対策も情報提供だけでなく、子どもへの対応や教職員の研修など具体的な取り組みを進めてほしい。

プランの原案については、部会長一任という形で事務局と部会長がまとめる。